アンテオケ宣教会 NEWS

第243号
2023年9月

JAM
Japan Antioch Mission
アンテオケ宣教会

Japan Antioch Mission News
Japan Antioch Mission News
Go into all the world and preach the good news to all creation.

欧州の３宣教師をお訪ねして

総主事　大田裕作

３年延期した北欧訪問が実現し、そこでは今も日本のために熱く執り成してくださる教会の方々にお会いできて感動でした。それに合わせて中欧の宣教師がたをお訪ねしました。ドイツ・ミュンヘンの井野先生はハンブルグから転任して１年半、家賃高騰の続く中での住居探しが未だ続いていました。教会の活動は地元の二つの教会の部屋を時間借りしています。どちらも集会後の交わりがプツンと切られるため、今回の家探しでは先生の個人スペース＋信徒・求道者の方と交われる余裕ある住居の必要を強く感じました。今回出席できた子育てママたちの集会には福音に心を開いている数名の方々と出会い、可能性の広がりを感じました。是非とも好物件に転居できるようにと願います。

そこからさらに協力宣教師の二組の先生がたを訪ねました。ベルギーの首都ブリュッセルに川上寧・真咲夫妻と、そこから車で１時間余南下した北フランスで働かれている宮坂鉄也・ジャンネメ夫妻です。どちらにも邦人社会がありますが、二組とも国際感覚豊かに現地人また他国からの移住者への宣教に取り組んでおられます。欧州は日本から見るとキリスト教が歴史・社会に深く溶け込んでいるように思われますが、実際には日本以上に伝道が難しいかもしれません。人々はポストキリスト教の時代に生きており、福音に対しては「もう知っている。教えてもらう必要はない」と言った感覚です。井野先生も「ドイツ人が語るよりも、東洋の仏教国から来た日本人がイエスの福音を語る方が地元の方にははるかに新鮮に響く」と話しておられました。そう言えば北欧の先生がたも若者世代の教会離れが進む中で、「私たちの国も宣教師を必要とする国になりました」と口を揃えて語っておられました。

これは現実の話です。「私たちがヨーロッパへ宣教師を送るのですか？」と反応してしまいそうですが、今や世界の宣教は双方向、互いに送り送られ、の時代になりました。上記の二組の協力宣教師は現地の宣教団体と協力して現地人の救いのために、試行錯誤を重ねながら誠実に励んでおられます。「日本人がヨーロッパの人々に福音を！」 私はその懸命な姿に感動しながら、彼らのために日本国内で充実した祈りの支援グループが起こされることを切に願わされました。

宮坂宣教師ご一家、川上真咲宣教師と

はい、ここにおります

在原繁・津紀子
アルゼンチン

「はい、ここにおります。」（出エジプト記３章４節）今も心に響き続けるこの御言葉は、「モーセのように謙虚であれ。『しもべ』として神と教会に仕えよ！」と言う権威をもって、私たちに迫ります。

宣教する上で私が克服を心がけるべき最大の敵に、臆病や怠惰があります。「努力しなければ！」「ファイト、一発！」とつい力んでしまう癖が私にはあります。努力は尊いものですが、人間的情熱や努力優先を神は喜ばれないこと。肉は「手で砂をつかむ」結果を生じる経験を、今日まで幾度か重ねてきたものです。では、勝利へのカギはどこに？それは永遠に変わりません。「十字架」と「御霊」にあることを悟らされます。眼前に備えられた「宣教行程」を主に合わせて進んで行きたく願っております。

さらにもう一つの「宣教の奥義」を主は御言葉をもって示して下さいました。これが「まばゆい」光となって、今も私たちの心を照らし続けています。「一条の光」ともいえるそれは、次の御言葉でした。「あなたがたは神の神殿であり…」（Ⅰコリント３章 16 節）

「神殿」とは教会とキリスト者個人であると御言葉は宣言しています。霊的な教会とクリスチャンの存在の深さはここにあると思います。同じ 16 節に「神の御霊があなたがたに宿っておられる」とパウロは宣言しています。「神殿」とは神の御霊の宿る聖地であり、神は目的をもって私たちを「神殿」として立てられ、地の果てへと遣わされたことを悟らされます。神殿に命じられたその目的とは、派遣された宣教地とそこに住む人々を「潤す」こと。その働きについては「エゼキエル書 47 章」を通して美しく描写されており、今日の私たちはこの御言葉により心掻き立てられています。「この川が入る所では、すべてのものが生きる。」（９節）「その水が聖所から流れ出ているからである。」（12 節）と締めくくります。

「遣わされた土地と人々を潤すため、ここに派遣されたのだ！」と、そんな歓喜をもって宣教地に立っている私たちです。（繁）

湖での洗礼式

井野葉由美
ドイツ

皆様に長らくお祈りいただいていたビザの件、ようやく８月に役所の予約が取れ、正規ビザを取得できる事を期待しています。住居はまだ決まっておりませんが、神は御業を進めておられます。

６月 10 日にはミュンヘン市内の湖で、Ａさんが受洗されました。戸外での受洗を希望されましたので、暖かくなるのを待って、ようやく受洗の運びとなりました。彼がイエスを信じたきっかけは、マタイ 14 章のペテロがイエスに呼ばれて水の上を歩いた場面とのこと。ペテロが強風を見て沈みかけた時、「イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた（31 節）」との場面から、「イエスは私たちが失敗しても不信仰に陥っても、叱責するより先に、まず助けてくれる。このお方について行きたい」と思ったそうです。エアランゲンという、車で２時間離れた町から、小さいお子さん二人を連れて、毎週ご家族でミュンヘンの礼拝に集っています。彼らの住む町からはミュンヘン日本語教会が最も近いのです。洗礼式当日は良いお天気に恵まれ、教会関係者とともにピクニックでお祝いしました。戸外での洗礼は初めて経験したという方が、「イエス時代の洗礼が身近に感じられて感動した」と言っていました。海外日本語教会は様々な教派背景を持った人々が集められているので、全身を水に浸す浸礼自体になじみが少ないという方もいます。そういう方々がともに集い、同じキリストを救い主として集えることは素晴らしいです。

現在ミュンヘン日本語教会には 30 歳くらいの単身の女性が集められています。「住居が見つかったら、対面のバイブルスタディを始めたい」と考えていましたが、神から「住居が見つからなくても始めなさい」との促しをいただきました。すると「家庭集会を開きたい」と願っていた女性が手を挙げて、先日、教会外の人も含め同年代の女性たちで、聖書入門のアルファコースを始めました。彼女たちが信仰の友、仲間となっていき、彼女たちを通して救われる魂が起こされるようにと夢は膨らんでいます。

王である祭司

安川圭吾・美穂
タンザニア

インド人教会では毎週火曜日午後６時から教会で祈り会を持っています。何曲か賛美を歌ってから、順番に主に感謝したいことを証しして、短い感謝の祈りを捧げます。皆の証を聞くと信仰が引き上げられて、主の御業に対する期待が膨らんできます。するとその後の執り成しの祈りが単なる願い事の羅列に終わらず、主が祈りを聞き届けて下さったことを確信出来るようになるのです。祈り会に出席していない兄弟姉妹のために祈るときは、電話をかけてスピーカーモードにして一緒に祈るようにしています。電話がつながらない時は祈りを録音して添付・送信します。火曜日の祈り会は私が一番好きなミニストリーです。ここで捧げられる祈りの一つひとつに主が答えてくださって主のご真実を直接体験出来るからです。時々、祈りを希望する未信者の方が来られることもあります。その時は、柔軟に対応して祈り会が伝道集会に変わります。

一か月ほど前に、ラザロス兄が友人で、アフリカ系イスラム教徒のフセインさんを連れて来られました。腸のよじれるような痛みのために仕事が出来なくなり、藁をもすがる思いで教会に来たのでした。福音を伝えて、イエスさまを信じる祈りを一緒に告白しました。そしてみんなで彼を取り囲んで手を置いて癒しのために祈りました。その場では特に何も起こっていないような様子でしたが、次の火曜日に再びやって来て、「完全に癒されました」と証ししてくれました。それ以来、毎週祈り会に出席しています。タンザニアではインド系とアフリカ系の間には見えない壁があって、プライベートではお互いに交わろうとしません。アフリカ系はクリスチャン人口が多く、宣教熱心な教会も多くあるにも関わらずインド系に届くことが出来ずにいました。そのためインド系はずっと未伝民族のままでした。しかし、今回のように福音を聞いて救われたインド系の兄弟姉妹が王である祭司となって、アフリカ系の救いと癒しのために用いられるようになるとは、主がなさる御業は何と素晴らしいことでしょうか。（圭吾）

カナダでのアウトリーチ

長澤久美子
韓国

暑中お見舞い申し上げます。日本も韓国も長い梅雨と豪雨の被害が今年もあちこちでありました。人々と地域の速やかな回復を共に祈ります。地球上の様々な現象は産みの苦しみでしょうか。罪から離れ、世の光、地の塩として生き、働き、魂の悔い改め、リバイバルを願います。さて、次男ダビデ夫婦に三年振りに与えられた主からの賜物、ソノ君と嫁のヒスさんの世話のためカナダのバンクーバーに行ってきました。最後の一週間、私はこの国のために聖霊に示され、悔い改めさせられました。そして日本人教会でのアウトリーチに参加しました。木曜の朝、教会と姉妹夫婦の家で作ったサンドイッチとタコソース、パンケーキそしてコーヒーを運び、イーストサイドへ行きました。そこでランチに並ぶホームレスの人々に自由にテーブルから取ってもらうのです。その日は福祉協会から現金が支給される日で、いつもの半分の 50 人程。でもなぜか皆さん健康体。しかし顔は傷だらけ！それは喧嘩のせいではなく麻薬のためでした。ほとんどは男性でしたが、女性もいてみんな食べ物に集まりますが、一緒にいてもなぜかバラバラでした。多分みんな勝手に生きているからでしょうか？そして聖霊の導きで、最後に戻ってやって来た若者に「あなたはクリスチャンですか」と尋ねました。「いいえ、仏教徒！」と答えたので、まことの救い主キリストを知らせ、語り、証をし、「最後に一緒にあなたのために祈っても良いですか」と聞くと、素直に「はい」と答えたので、共におられた牧師先生と祈りました。そして教会案内のチラシと新約聖書を渡しました。すると彼がこう言いました。「私の父親はカナダ人、母親は日本人ですが、自分を置いて昔日本に戻りました」と。母親恋しさに仏教徒になったのでしょうか。しかし、私たちを見捨てて孤児にはしない主の愛を知って、信じて欲しいと切に願い祈りました。そんなことが最後の一週間にあり、聖霊の導きの中で過ごし、次男一家の住むバンクーバーを後にしました。皆様のお祈り、ご支援に感謝しつつ。

VIP 日韓大阪交流会の再開

朴ダニエル・任妍貞
韓国

２月からコロナのため閉ざされていた日韓間の航空便が再び開かれ、大阪を訪問することができました。JEC 八尾南教会の福島牧師にお会いして、新型コロナウイルスの厳しい時期に枝教会で新会堂を建築した話を聞きながら、生きて働かれる神様の恵みに感謝の賛美を捧げました。その枝教会の出戸バイブルチャーチでは韓国語礼拝を行っているという話を聞き、胸いっぱいの喜びと感動で日韓教会の霊的架け橋になるとの使命でソウルに開拓しました日本ビジョン教会の創立 15 周年記念礼拝に福島牧師夫妻をご招待しました。

その後、出戸バイブルチャーチの韓国語礼拝に月に一度、第４主日の礼拝で説教をすることになり、その傍ら、６月には JBA ビジネス士官学校の生徒たちと日本ビジョン教会の 19 人が、３泊４日で出戸バイブルチャーチに滞在しながら八尾福音教会と関西聖書学院を訪問しました。道本先生、梅津会長、宮谷先生、才門先生の講義を聞き、JBA 大阪ビジョントリップの訓練を実施しました。特別に歓迎し、受け入れてくださった福島牧師と奥様、また、韓国語礼拝の３人の韓国人姉妹がたと、教会の皆様のご親切ならびに素晴らしいご奉仕に感謝が溢れました。

７月には第４週の主日礼拝に八尾福音教会で説教させていただく恵みにあずかりました。そのような中、出戸バイブルチャーチの新会堂建設の奇跡を広めながら、今里に開拓した大阪ビジョン教会で VIP 日韓大阪交流会を再開したいと思いました。まず、出戸バイブルチャーチの福島牧師ご夫妻と娘婿の森島牧師ご夫妻に趣旨を説明して承認を得て、VIP 関西会長の梅津会長に報告し、10 月から VIP 日韓大阪交流会を再開することとなりました。韓国から 12 人ほどの参加者を予定していますが、もうすでに予約が埋まっています。ぜひ、このことのためにお祈りいただければ幸いです。（ダニエル）

勝利は主にあり

高橋真一・千恵美
モンゴル

前号で異端の攻撃について証しさせていただき、多くの取りなしの祈りをいただきました。離れて行った人々の空きを埋める様に、中高生を中心に 10 代から 20 代前半の若者が集っていました。すぐにユース・クラスが誕生し、毎週礼拝後に集っています。オヒオ師の長男イサクとバギー師の長女エンフジーンが次々と友だちを教会に導いています。まだ痛みや悲しみもある中ですが、若者たちが動き始めました。カルバリで既に主は勝利！お祈りを感謝いたします。

久しぶりにウンドルウラーン村の「永遠のイエス教会」を巡回牧会で訪れました。今回は医師の中谷志生（しおん）兄が同行して下さいました。礼拝後、20 名程の人が診察を求めて教会に来ました。日本人医師が教会にいるとの噂が広がったのです。実は私と志生兄は、前日に村で唯一の理髪店で散髪をしてもらいました。カットしている時から「日本人が散髪しているぞ」と店の外で声がします。村始まって以来の珍事。想定外の宣伝効果でした。「簡易診療所」となった教会には聴診器と血圧計、体温計だけ。志生兄は丁寧に問診触診を駆使して、結局夜 10 時過ぎまで診て下さいました。日本なら即入院という深刻な病気の人もいて、適切な処置、薬の処方がなされました。私とバギー師は手分けして診てもらった人々に伝道と癒しの祈りのミニストリー。彼らの救いのためお祈りください。「永遠のイエス教会」のリーダー、チムデーとビャンバー夫妻は 80 代の高齢。ＴＸ教会から村に遣わされて７年程。「我々はこの夏が最後の奉仕と思う。もう薪割りも水汲みも体にきつい。しかし若い献身者は田舎の暮らしは敬遠する。誰が立ち上がってくれるだろうか」と後継者を祈り始めて２年、その体力はすでに限界を超えています。祈りつつウランバートルに戻るとＴＸ教会の青年サイナー兄から相談があるとのこと。「地方の教会に重荷がある。でも主の導きか自分の思いか分からない。妻は賛成するか？導きを確信するにはどうすれば？」と。共に祈りました。主の明確な召しがありますように。（真一）

ジャカルタでの一歩と出会い

高橋央也・恵

インドネシア

ジャカルタでの働きのためにお祈りくださり感謝します。6月30日、深夜にもかかわらず、多くの方が教会や空港まで来てくださり、祈りの中で送り出されました。昨年６月の視察からわずか１年で宣教地への派遣。その間、箕面福音教会、支える会、神学校時代の友人、アンテオケ宣教会の先生方とスタッフの皆さま、そして家族から助けをいただきました。またデピューテーション先では、皆さまからの熱い思いに触れることができ、感謝とお礼を申し上げます。

ここジャカルタでの生活は驚きの連続です。お店では０の数があまりにも多い会計に「どのお札を使えばいいの？」と持っているお札を店員に全部見せて、毎回笑われています。荷物を受け取りに行った税関事務所では長時間待たされた挙句、「今日はパソコンの調子が悪いので時間がかかる」と言われぷりぷりして帰ってきた訳ですが、教会員から「それは『袖の下』を要求されたんだよ」、「外国人だけで行ったらダメ」と教えられ、さっそくインドネシア流の「洗礼」を受けたことにようやく気づいた次第です。

そして、今は出会いの時でもあります。ジャカルタ JCF 以外にも、バリ JCF、支援している聖書翻訳団体 Kartidaya の訪問など、たくさんの方と出会いました。日本人の夫を持つインドネシア人妻のグループにも参加しています。先日は主に心を開きつつあるインドネシア人との出会いを主は与えてくださり、彼はコロナ感染で死と直面したのですが、彼の宗教の教えでは天国に行けるという保証がないのです。彼は最近、クリスチャンは死んだらどうなるのか、聖書はどのように教えているのかと頻繁に聞いてくるそうです。目の前で彼のために祈ることはできませんが、とりなす導きを与えられています。

インドネシアのことを一つひとつ教えて頂きつつ、小さい一歩を踏み出しました。出会う人々との関わりの中で、十字架の恵みを語ることができるようにお祈りください。

「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ、主があなたの進む道をまっすぐにされる。」（箴言３：６）（央也）

聖霊の力にあずかって

久米麗

インドネシア

いつもこの小さき者を覚えて、尊いお祈りとお支え、おささげ物を心から感謝いたします。現在、ビザ切り替えに伴い日本に帰国しています。私はインドネシアでの９ヶ月の期間で、主の器として立つために必要な恵みの取り扱いをたくさん受けました。試練は当座は喜ばしくないと御言葉にある通りでしたが、今は本当に感謝をしています。

日本に帰国した時、母教会では夏に恒例の「燃えよ！リバイバル・サマーキャンプ」と教会の「60 周年記念礼拝」の直前でしたので、私も奉仕者として組み込まれ、ＣＳ教師の皆さんとキャンプに集う子どもたちを覚えて、毎晩決まった時間に特別な祈りの時間を設けたりしながら、祈りにおいても備えました。主題聖句は、使徒言行録１：８ でした。聖霊の力を受けましょう！とキャンプ当日、メッセンジャーが次々と語りました。この「力」はダイナマイトの語源となっているギリシャ語です。十字架を通して与えられた聖霊の力は、爆発的な力です！その言葉を受けて、教会に集まった老いも若きも聖霊を求め皆で祈りました。翌日の 60 周年記念礼拝は、マタイ 28 章の大宣教命令、弟子作り大命令から御言葉が語られました。そのためには、いつも聖霊を求めて目を覚まして、教会で共に祈り続けようと奨励がなされました。

多くの子どもたちも同じ御言葉をいただき、共に祈ったキャンプと礼拝。聖霊の力を受けて、地の果てまで出て行こう！と聞きながら育ったこの幼な子たちが、いつか主の使命を握って、まだ私たちの知らない地へと出て行き、私たちにその地のために祈ってください！と呼びかける姿を想像しました。「ああ主よ、楽しみですね！」何よりも私自身がまた聖霊の力にあずかって出て行くために力をいただいたキャンプ、礼拝となりました。

待望の初孫、ソノ君でーす

韓国　長澤宣教師

第７期出発します

アルゼンチン　在原宣教師

１周年記念礼拝

宇井英樹・由美
国内　国際教会牧会

５月２８日のペンテコステ記念の日に、私たちの教会、ＴＩＣＦ池袋教会の日英バイリンガル礼拝、今のＴＮＬＩＣ(東京ニューライフ国際教会)の１周年記念礼拝を持ちました。佐藤先生が２０１９年に在留外国人伝道をビジョンに、まず日本語と中国語のバイリンガル礼拝を始めたことなどＴＩＣＦの歴史とビジョンを話し、言葉や文化の壁を乗り越えてキリストの証人として召されている私たちの教会の使命を共に再確認しました。そして英樹が、「一つのチーム、一つの御霊、一つの平和」と題して語りました。国際教会は、福音があらゆる障壁を打ち破る力があることを体現したコミュニティーです。国際教会は、どのような文化、環境のなかにいる人々にもわかるように、神の国の豊かさを証しします。そしてあらゆる文化、民族の人々を、神の国に招き入れ、教会はますます豊かに神の国を現します。普段は礼拝に来ない方々をお誘いしたところ、出席してくださり感謝でした。礼拝の後、軽食の団欒の時を持ち、その後クイズやゲームを通して親睦を深めました。去年、日英バイリンガルの第１回目の礼拝に私たちも出席し奉仕しましたが、その時にはいなかった方々が今はメンバーとして加わられ、教会が成長していることに感謝です！

７月にホライズン・ゴスペル・クワイヤー 20 周年記念コンサートに行きました。このクワイヤーはあるご夫婦がゴスペルをしたいという思いを平野牧師に話したことから始まりました。でも誰が、20 年後に大ホール一杯の観客の前で、素晴らしい賛美を捧げるようになると想像したでしょうか？けれども、ビジョンを教会が共有し、信仰によって宣言し、行動し始めた時、夢は現実となって動き出しました。普段の練習、小さなステージと、一歩ずつ前に進んでいく中で、大きな舞台に至ったのでした。ひと粒の種が良い土地に落ち、100 倍の実を結ぶとはこういうことだと励まされました。

主が教会に与えられた使命を私たちが全うしていくことが出来るように続けてお祈りください。(英樹)

タンザニアでの働きを終えて

山舗 岳
タンザニア教育宣教師

主の御名を賛美します。今、私は２年間のタンザニアでの働きを終えて日本に帰国しようとしています。これまで大変なことも色々とありましたが、いつも主が守ってくださり、この２年間の働きを無事終えることができました。また、今振り返ると本当に素晴らしい出会いと経験をたくさんさせてもらったことを実感しています。神様の大きな恵みと祝福に感謝です。そして、その背後にあった皆さんの尊いお祈りとサポートに心から感謝いたします。

タンザニアに来た当初は毎日が試練の日々でした。特に英語が十分にできなかったので、色々な場面で苦労した事を思い出します。授業では言いたいことがうまく言えずにもどかしい思いをすることがよくあったし、スタッフのミーティングでは３割くらいしか内容を理解することができませんでした。生徒や先生とのコミュニケーションが怖く感じられました。それに加えて毎日の授業準備、テストの作成、採点、生徒のノート点検などに追われて、家に帰ってからも仕事をして疲れ果てて、いつの間にか寝ているといった状況でした。当初はスクールバスで通勤していたので、毎朝バスの中で、神様がなんとかしてくれるように必死にお祈りしたのを覚えています。神様は私の祈りを聞いてくださり、最後まで守り導いてくれました。英語や仕事にも徐々に慣れていきました。自分の力不足を感じることも多々ありましたが、神様はそんな私を用いてくださいました。私は自分の小ささを認めて神様に信頼することを学びました。

また、この２年間に学校の外でも色々な経験を積むことができたのは感謝でした。HOPAC での高校生ミニストリー、教会での教会学校やユース集会の働き、現地の孤児の支援や教会のサポートなど、多方面で神様の働きのために仕える機会を与えられました。初めてのことも多く十分な働きができたかはわかりませんが、これらを通して多くのことを学ぶことができました。他にも現地の日本人に証ししたり、聖書の学びを一緒にしたりできたことは喜びでした。特に、私の 10 年来の友人が救いに導かれた事は忘れられない出来事です。私はタンザニアで生活を始めた頃、彼の家に同居させてもらい、自分の証をして福音を伝えていました。しかし彼は頑なに拒絶していました。ところが、別々に住むようになってしばらくした頃に偶然出会い、一緒に朝食をすることになりました。そして彼の口から「イエス・キリストを信じてみたいと思う」という言葉を聞きました。大きな驚きと喜びの入り混じった気持ちになりました。それから信仰告白、聖書の学び、洗礼に導かれました。本当に嬉しい出来事でした。

これら全ての事は私一人の力で決してできることではなく、多くの方々の祈りとサポート、聖霊による働きがなくてはできなかったと確信しています。改めてありがとうございました。そして真実で良い父である神様に感謝いたします。「主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。」(詩篇 121 篇８節)

ムワンザで孤児を３人育てるママサラの家で

HOPAC の生徒たちと

ちえさんの祈りコーナー

「人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありましょう。」（マタイ16章26節）

・厳しい環境に立ち向かいながら、この国の人々は互いに助け合い必死に生きています。もし、彼らがまことの神である主イエス・キリストに出会うことが出来れば、彼らはこれまでも、またこれからも主に祝福された者であることを喜び、主を賛美し証しする者となるでしょう。

・十字架による贖いの良き知らせを待ち望んでいるこの国の人々の心に福音の種が蒔かれ、実を結ぶまでに成長させて下さいますように。

・現地のキリスト者が迫害から守られ、みことばに立ち続ける力と勇気が与えられますように。

みかさんの祈りコーナー

主が私たちに望んでおられることは明確で、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」（Ⅰテサロニケ5章16~18節）

日々の生活の中、創造主のなされることを見つけて喜び、祈りを積み上げ、感謝を捧げる者として成長できますよう！

・未伝部族伝道ネットワークの働き人のため。

・お金への不誠実さを抱えている働き人が数名いることが判明。近々一泊二日の交わり、学びを計画中。

新入会員紹介⑤
協力宣教師となって

高井ヘラー由紀
台湾

皆様初めまして。今年初めに協力宣教師として迎えていただきました、高井ヘラー由紀と申します。現在私は、台湾最大のプロテスタント教会「台湾基督長老教会」に属する「南神神学院」（通称：台南神学院）で教師をしています。台湾基督長老教会と宣教協力関係にある日本基督教団から信徒派遣宣教師として派遣されていますが、アンテオケの祈りの輪に加えていただけましたことを大変嬉しく思っています。

私はカトリック教会で育ち、小学生の頃に献身の思いを与えられました。教会を離れていた中高生時代を経て、中国語で礼拝をしている福音派の東京国際基督教会に導かれ、改めてイエス・キリストを救い主として受け入れ、結婚までの信仰生活を過ごしました。国際基督教大学入学後は KGK に導かれ、メンバーの友人たちと聖書研究や祈りに多くの時間を過ごす中で、「全生活を通しての証」の重要性を学びました。一方、大学の授業を通してアカデミックなキリスト教からも多くを学び、大学院に進んでから「日本の教会の戦争責任」について考えさせられ、博士課程進学後、指導教授のアドバイスにより台湾キリスト教の研究を始めました。

1998-1999 年、博士論文の資料収集のために 1 年間滞在した台南神学院で、後に院長となった王崇堯牧師より、「将来、日本基督教団の宣教師になって戻ってきてここで教えたらいいよ」と言われました。帰国後、ダニエル・ヘラー（現在は中央大学特任教授）との結婚に導かれ、夫の所属する日本基督教団に転入会しました。2004 年に博士号を取得したのちは出産・子育てに追われ、ついに 2013 年、思い切って家族と一緒に半年間台湾に滞在して研究をしました。その際、台南神学院に挨拶に行ったところ、院長になっていた王崇堯牧師から開口一番、「由紀、いつ来られますか？」と聞かれて驚きました。今更、と内心思ったものの、とっさに「次に来られるとしたら 2018 年です」と答えていました。そこから夫との話し合い、台湾の恩師との相談、たくさんの方々に祈ってもらう中で、道が徐々に整えられ、本当に 2018 年 3 月に日本基督教団から信徒宣教師として派遣していただく運びとなりました。

同年 8 月、正式に台南神学院の助理教授に就任した後は、中級の下程度の中国語のレベルで神学院の講義をこなすという緊張の連続で寝不足の毎日でしたが、皆様の祈りと、文字通り不可能を可能とする主の御力に支えられ、この夏で満 5 年となりました。神学院の働きと並行して、近くの国際教会「Tainan International Community Church」の働きにも導かれ、牧会チームのメンバーとして奉仕しています。

宣教師としての働きの中で大事にしているみ言葉は、「慰めよ、わたしの民を慰めよ」（イザヤ書 40:1）です。台湾の社会は表面的には明るく元気に見えても、植民地支配の歴史的な傷は今でも台湾社会や人々の潜在的な記憶の中に残っています。与えられた神学校での働きを通して、主の慰めを台湾の人々や社会に送り届けたいと願っています。

台南神学院の学生と

アンテオケ宣教会会計報告

一般（事務局）会計収支　（2023 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日）

収入科目	金額
一般献金	2,282,000
宣教師・国内スタッフ献金	305,000
アンテオケ分担金	470,000
銀行利息	34
アンテオケサポーターズより	400,000
広告協賛金・アンテオケデー献金	102,000
前月繰越	2,290,682
収入合計	5,849,716

支出科目	金額
通信費	101,817
出張費	102,480
会議費	201,078
交通費	132,882
事務費	6,327
活動費	94,050
ニュース関係費	390,388
IT 関係費	27,500
印刷費	46,500
図書費	1,588
JOMA 関係費	60,000
事務所賃借料	283,800
スタッフ援助費	1,170,050
火災保険料	5,170
広告費	45,000
備品費	26,400
接待費	22,397
支払手数料	77,488
業務委託費	20,000
法人設立費用	191,410
JCE7 参加費等	137,500
研修費	8,000
諸会費	5,000
預り金	9,950
雑費	17,948
次月繰越	2,664,993
支出合計	5,849,716

献金芳名リスト（敬称略・順不同）計 197 件

教会及び団体

アルゼンチン宣教を支える会 (5)　アンテオケサポーターズ　一麦東京　インドネシア福音 (3)
井野師を支える会 (3)　宇井師を支える会 (3)　上田（兄弟団）(2)　浦和福音　江藤みかを支える会 (4)
大磯キリスト (3)　大川内科　大野キリスト　香登 (2)　片柳福音自由 (2)　可児福音 (2)
カナン・プレイズ・チャーチ　鎌倉海岸　キリストの栄光　久米麗を支える会 (3)
クリスチャンフェローシップチャーチ　郡山キリスト (3)　堺福音　札幌福音館　サンビルダー
シャローム社　JEC 海外宣教委員会　十字架福音 (2)　鈴鹿キリスト (3)　高松シオン (3)
高橋央也・恵と共に歩む会 (3)　宝塚福音　垂水 (3)　タンザニアミッション (3)　千代田福音　東栄福音 (2)
東京若枝 (3)　東洋ローア (12)　名古屋一麦 (2)　21 世紀キリスト　二宮山西　日本イエス教団事務所 (3)
朴師を支える会 (3)　平塚福音　プラトナの会 (3)　蓬莱キリスト　北海道聖書学院学生会
ホームチャーチ・ライトクロス　本郷台 (3)　丸亀聖書　未伝地ミッションを支える会 (3)　宮崎北
モンゴルミッションジャパン (4)　八尾ホープチャペル　八尾福音北九州チャペル　八栗シオン (6)
山形聾者キリスト (2)　山下商会　大和キリスト (3)　山舗師を支える会　山中ファミリーを支える会

個人

安海靖郎・通子　新江雅宏・裕子　井野葉由美 (3) 井原敬二　後宮嗣　内村郷美
大田裕作・伯子　奥秋健治　甲斐博 (2)　加々美要　菅野昭子 (3)　菅野陽・千春
小林宮子　小森康三　小柳茂　コンドウヒロシ・サカエ　斉藤尚子　竿代丈夫・啓子
白石梢　城山直子　末盛桜子　世利夕起子　高井ヘラー由紀 (3)　高山嘉津子 (3)
坪内貴代子　中奥龍子　永島陽子　西鳥亘・結衣　林正敏　藤井三紀子 (3)　福本和代
星出卓也・薫 (3)　本多英夫　本田義廣　三浦岸雄 (3)　森川桂造　山下祐弘 (3)　山田初子
吉田輝世香　吉永輝次・則子　饒平名真実　和氣名保子　匿名 (8)

* 事務局からのお願い・・・赤色の払込取扱票による現金でのお振込みが有料となりましたので、可能な方は手数料のかからない「ゆうちょダイレクト」をご利用くださるようお願いいたします。

オンライン献金のご案内

利便性のために、これまでの献金あて先の他に、オンライン献金を始めました。ご利用いただける方は、こちらの QR コードからご利用ください。

私たちも世界宣教を応援します！

医療法人社団　塩光会
大田医院
内科・皮膚科・小児科
聖書研究会　木曜日 14:30 ～ 15:30
茨城県筑西市西方 1684-1　Tel. 0296-22-3914

医療法人社団
湯川胃腸病院
心を尽くし　思いを尽くし
知性を尽くし　力を尽くして
全人的に仕える医療と福祉
〒 543-0033　大阪府大阪市天王寺区堂ヶ芝 2 丁目 10-2

宣教センター便り

「読者のページ」

アンテオケで毎年発行している「宣教師地図」の感想

【懐かしい！昔からこの地図が教会に貼ってあって、よく見て祈っていました。移動先の教会には届いていなかったので、その間に行かれていた宣教師もたくさんいたのですね】（S・Mさん）【この地図が貼ってある部屋で仕事していました。だから自分が宣教師に召された時、すぐにアンテオケに連絡しました】（岡本告師）

●去る6月26日の理事会で、岡本告・涼子師（同盟福音基督教会一宮キリスト教会所属）を宣教師として受け入れました。北米宣教の道が開かれるようにお祈りください。

●教育宣教師の山舗岳宣教師は7月末で休会します。今後の学びと続く宣教の道が開かれるようお祈りください。

●高橋央也・恵（6／30）、山中実・早紀子一家（8／6）、今西勇太・茉莉一家（8／2）ら各宣教師は、インドネシアに赴任されました。

●「どこでも出張」、大田総主事との面会をご希望の方は、宣教センター事務局にお問合せください。

《宣教センタースタッフからひとこと》

●『じゃむきゃん』―異文化体験ユースキャンプ、次世代の若者たちは、どんなアクティビティにも積極的でした。輝いた顔が眩しかったです。（高山）

●今回の巻頭で紹介された二組の宣教師（北フランス・ベルギー）とご家族のためにぜひお祈りください。具体的にサポートしてくださる方は宣教センター事務局までご連絡ください。（菅野）

●宣教師志願者の会は2回目、『じゃむきゃん』でも多くのユースが招きに応えました。実際に宣教地へ赴くまでには様々なプロセスがありますが、今遣わされている所から共に宣教を担っていけますように。次世代の宣教師たちのためにお祈りください！（佐藤）

●『じゃむきゃん』にスタッフとして参加しました。宣教に関心のある多くのユースたちの真っ直ぐな信仰に励まされ、素晴らしい時間を共有できて感謝でした。（若林）

●次号二四四号は、二〇二三年十二月発行の予定です。

発行所 アンテオケ宣教会　〒 101-0062　千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 203 号　TEL：03-5577-7035
E-mail　jimukyoku@jantiochm1977.net　ウェブサイト jantiochm1977.net　郵便振替 00170-4-10379　編集者 菅野和彦